vol.6

福★島キラリ

Fukushima★kirari

楢葉町をもっと元気に！中学生がまちづくりに参加

中学生室

左から 鎌田 一輝さん、坂本 華凜さん、政井 優花さん、荒井 嶺良さん、渡辺 あさひさん、青田 康佑さん

平成29年9月、「子どもたちの声を町政に活かす」という目的で楢葉町役場復興推進課内に「中学生室」が発足しました。メンバーは、町から委嘱された楢葉中学校の2年生たち。全国でも例を見ない画期的な取り組みに、注目が集まっています。

きっかけは、町の復興戦略アドバイザーの岸博幸慶応義塾大学大学院教授が行った特別授業。「夜、暗い道が多い」「空き家が増えている」といった町の課題解決に向け、意見を出し合うなかで立ち上がりました。メンバーに話を聞くと、「自分の住んでいる町をもっと良くするにはどうすればいいか考え、やってみようと思った」「将来、役場で働くのが夢なのでこの体験を活かしたい」など、参加理由はさまざま。それでも「楢葉町が好き」という気持ちは

---

vol.5

知事だより

知事の活動を伝えるコーナー！

首都圏に進学した福島県出身の学生たちと、福島の魅力を語り合いました。

本県出身の学生が企画・運営する「ふくしま若者会議」。今回は「福活」、「福島で就活」をテーマに、学生さんたちと交流してきました。他県出身だけど福島で働きたい、海外で経験を積み復興に貢献したいなど、福島に思いを寄せてくれる学生さんたちのいろいろな夢を伺うことができました。これから社会人になる若者たちが、たとえどこで働くにしても、福島への思いを持ち続けてくれたらうれしいし、帰ってきて福島の復興に力を貸してくれるならもっとうれしいです。

ふくしま若者会議「福活JOBサミット」（東京都）

60名以上の学生が参加してくれました

▲ 家族や友人、町の人々からたくさんの応援の声をもらい、イベントは大盛況のうちに終了

イベントでは
地元の店舗とコラボした
特製ジェラートも
振る舞った

▲ 今後の運営について話し合うメンバー。さまざまなアイデアが飛び出す

全員同じです。

12月には、町主催のイベント「ウィンターイルミネーション」に人を呼び込もうと、特製ジェラートを考案。資金調達のためクラウドファンディングにも挑戦し、支援者を募りました。イベント直前にはテレビの生放送番組に出演し、積極的にPRも。初めての試みに不安を感じながらも、結果は大成功で、町民はもとより県外からも大きな反響があったそう。

「同年代の方たちをはじめ、思っていたよりもたくさんの人が支援してくれたことに驚いた」と言います。

月に一度は、今後の計画や反省点を話し合うミーティングを実施。同席する町の担当者も、「私たちには考えもつかない発想が頼もしい」と期待を寄せています。今後は「自分たちの活動をきっかけに楢葉町に興味を持ってくれる人を増やしたい」と語る「中学生室」の面々。楢葉町のより良い未来のために、彼らの挑戦は続いていきます。

外から見た福島のイイトコロ教えます

ふくしま

二重マル

二本松の温泉も大好き

高橋（たかはし） リリアナさん（メキシコ出身）

国外や県外出身の人から見た福島を知るコーナー。
第5回は、相馬市にお住まいの高橋リリアナさんです。

浜の人はメキシコ人に似ていてフレンドリー！

青年海外協力隊の一員としてメキシコに来ていた夫と出会い、福島で結婚しました。相馬は小さいまちだと聞いていましたが、何でもそろっていて驚いたのを覚えています。メキシコは暖かいので、寒い海も雪も、相馬に来て初めて体験しました。松川浦大橋から見る景色がお気に入りで、相馬野馬追も大好き。浜の人は、初対面でも友達になってしまうメキシコの人に似てフレンドリーですね。

運営を手伝う原釜幼稚園にて家族や園児たちと一緒に

読者からのお便り

浜通りは海の幸、魚貝類はもとより、松川浦産の海苔の生産も始まり、中通りはくだもの王国を代表する献上桃、湯量豊富な温泉の町。会津は米どころに酒どころとどこにも負けないので、より一層風評払拭で多くの方々に来ていただきたいです。（相馬市 30代）